Japanese Utility Model Publication No. 6-9943

Publication Date : March 16, 1994
Application No. : 63-64746
Filing Date : May 17, 1988
Applicant : Yoshino Kogyosho
Inventor : Arihiro ONODA

Title of the Device

Plastic Container with Handle

Claim

1. A plastic container with handle comprising a container part having an opening, and a lid which closes the opening, wherein

the container part has a projected edge which extends outward and downward from the opening,

the lid has a wall part provided at the periphery of the lid, and the inner surface of the wall part has an engaging recess which can engage with the tip of the projected edge,

the outer surface of the wall part has a fitting part for handle, the fitting part being located at the symmetrical position to the engaging recess,

a handle is rotatably fitted to the fitting part of the lid, and

an opening is formed at the top of the lid and the opening is closed by a cap.

Excerpts from the Detailed Description of the Device

Referring to Figs. 1 to 3, a container part 1 has at its top an opening 2. A projected edge 3 is provided at the periphery of opening 2 in such a manner that projected edge 3 extends outward and downward from opening 2. A lid 10 has a wall part 11 which is provided at the periphery of lid 10 and hangs down from the periphery. The inner surface of wall part 11 has an engaging recess 12. Engaging recess 12 can engage with the tip of projected edge 3. Handle 20 is rotatably fitted to a fitting part 35 which is located on the outer surface of wall part 11 and is also located at the symmetrical position to engaging recess 12. Accordingly, when the container is lifted up by holding handle 20, engagement of engaging recess 12 with the tip of projected

edge 3 is further secured.

An opening 14 is formed at the center of lid 10. A spoon 16 is attached to opening 14. Spoon 16 is used for the purpose of taking contents such as detergent powder contained in the container from the container. Opening is closed by a small cap 15.

(19)日本国特許庁（ＪＰ）　(12)実用新案公報（Ｙ２）　(11)実用新案出願公告番号

実公平6－9943

(24)(44)公告日　平成６年(1994)３月16日

(51)Int.Cl.[5]		識別記号	庁内整理番号	Ｆ Ｉ	技術表示箇所
Ｂ６５Ｄ	25/28	１０６　Ｚ	6540－3E		
	25/32	１０２　Ｚ	6540－3E		
	51/24	Ｃ	7445－3E		

請求項の数１(全 ３ 頁)

(21)出願番号　実願昭63－64746

(22)出願日　昭和63年(1988)５月17日

(65)公開番号　実開平1－168438

(43)公開日　平成１年(1989)11月28日

(71)出願人　999999999
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号

(72)考案者　小野田　有弘
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

(74)代理人　弁理士　佐藤　宗徳　(外１名)

審査官　新海　栄

BEST AVAILABLE COPY

(54)【考案の名称】　合成樹脂製の提手付き容器

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項１】容器本体１の開口部２に、外方の斜め下方に突き出した折り返し突っ張り縁３を設け、この開口部２に蓋体10を被嵌し、蓋体10の外周壁11の内側には係合用段部12を設けて、折り返し突っ張り縁３の先端部４を係止し、外周壁11の外側の対称位置２箇所に、提手嵌着用軸35を突設して提手20を回動自在に嵌着し、蓋体10の頂部に設けた取り出し口14に小蓋15を嵌着した合成樹脂製の提手付き容器。

【考案の詳細な説明】

〔産業上の利用分野〕

本考案は、合成樹脂製の提手付き容器に関する。

〔従来の技術〕

従来、合成樹脂製の提手付き容器は、実開昭６１－１６９０００号公報に記載されている。この公報に記載された提手付き容器は、第４図及び第５図に示すように容器本体１の側壁部に提手嵌着用軸35を突設したものである。

2

〔考案が解決しようとする課題〕

第４図及び第５図に示すような合成樹脂製の提手付き容器を一体に形成するには、射出成形で成形している。

しかしながら、射出成形は精密で複雑な形状のものを一体成形で成形できるが、コストが高くなり、真空成形及び圧空成形はコストが安くなるが、精密で複雑な形状のものを一体成形で成形することが困難である。

本考案は前記事項に鑑みなされたものであり、提手付き容器の容器本体１を真空成形又は圧空成形等で成形できるようにすることを技術課題とする。

〔課題を解決するための手段〕

本考案は、前記技術的課題を解決するために、以下のよ

うな構成とした。
即ち、容器本体1の開口部2に、外方の斜め下方に突き出した折り返し突っ張り縁3を設け、この開口部2に蓋板10を被嵌し、蓋体10の外周壁11の内側には係合用段部12を設けて、折り返し突っ張り縁3の先端部4を係止し、外周壁11の外側の対称位置2箇所に、提手嵌着用軸35を突設して提手20を回動自在に嵌着し、蓋体10の頂部に設けた取り出し口14に小蓋15を嵌着した合成樹脂製の提手付き容器とした。

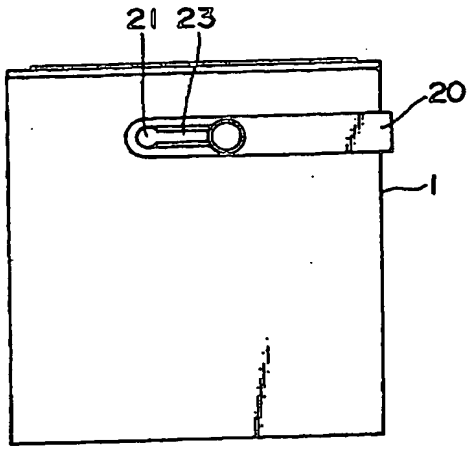
〔作用〕
本考案は、第1図及び第2図に示すように容器本体1の開口部2に、外方の斜め下方に突き出した折り返し突っ張り縁3を設け、この開口部2に蓋体10を被嵌し、蓋体10の外周壁11の内側には係合用段部12を設けて、折り返し突っ張り縁3の先端部4を係止しているので、蓋体10が強く上方に引っ張られると、容器本体1の折り返し突っ張り縁3は、開口部2との接合部5を中心として外方に回動するような力を受け、先端部4が蓋体10の係合用段部12に一層強く係合する。そして、提手嵌着用軸35を蓋体10の外周壁11の外側に突設させて、容器本体1を簡単な形状としたので提手付き容器の容器本体1が真空成形又は圧空成形等で成形できる構造となった。

〔実施例〕
以下、本考案による実施例について第1図乃至第3図を参照しつつ説明する。
この合成樹脂製の提手付き容器は容器本体1の開口部2の全周囲に、接合部5を頂点として外方の斜め下方に突き出した折り返し突っ張り縁3を設け、この開口部2に蓋体10を被嵌し、蓋体10は頂部から垂下して設けた嵌合用筒13を前記開口部2内に挿入し、外周壁11の内側には凸部と溝から成る係合用段部12を設けて容器本体1の折り返し突っ張り縁3の先端部4を係止し、提手20により本考案の提手付き容器を持ち上げた時一層強く係合する＊構造になっている。そして、提手20は外周壁11の幅方向中央で外側の対称位置2箇所に突設された提手嵌着用軸35に嵌着し上部嵌合孔22と下部嵌合孔21及びスリット23により自在に回動及び伸縮できるようになっている。さらに、蓋体10の頂部に設けた取り出し口14は、一体成型したスプーン16が備えてあって取り出し口14の帳面18に防水性薄膜17を剥離可能に貼付し、小蓋15を外嵌して嵌着する構造となっている。
そして、この実施例では蓋板10の取り出し口14にスプーン16を一体に形成してあるが、この取り出し口14には、すり切り用バーを一体に形成してもよい。

〔考案の効果〕
本考案は、容器本体1の開口部2に折り返し突っ張り縁3を設け、この折り返し突っ張り縁3の先端部4を蓋板10の係合用段部12に係合するようにしたので、蓋体10が上方に引っ張られると先端部4と係合用段部12とは一層強く係合するので、簡単な構成で容器本体1と蓋体10を嵌合止着することができ、力のかかる提手嵌着用軸35を蓋体10に設けることができた。その結果、容器本体1は提手嵌着用軸35を設けない簡単な構造となり真空成形又は圧空成形等で成形できる構造となり、本考案は提手付き容器のうち最も大きな部分である容器本体1を安価とすることができた。

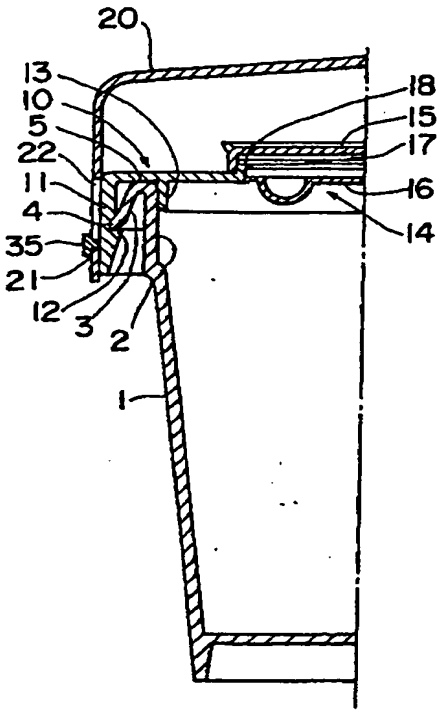
【図面の簡単な説明】
第1図は本考案の一実施例の縦断面半裁図、第2図はその要部を破断して示した側面図、第3図はその外形斜視図、第4図は従来例の側面図、第5図はその提手取り付け部の部分断面図である。
1……容器本体、2……開口部、
3……折り返し突っ張り縁、4……先端部、
10……蓋体、11……外周壁、
12……係合用段部、15……小蓋、
20……提手、35……提手嵌着用軸。

【第4図】

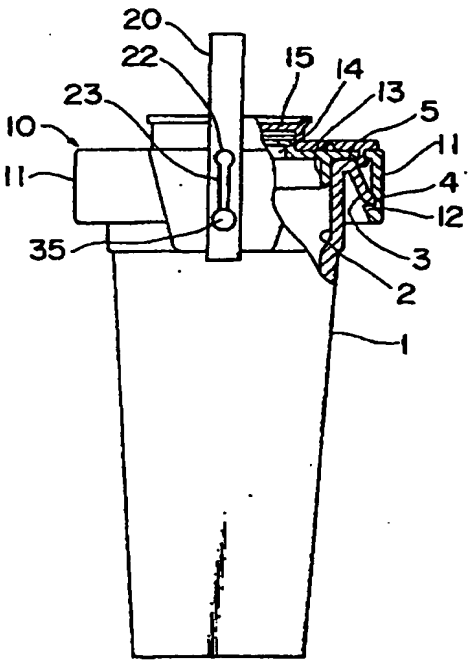


BEST AVAILABLE COPY

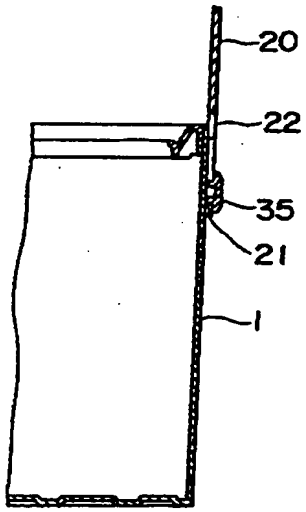
【第1図】



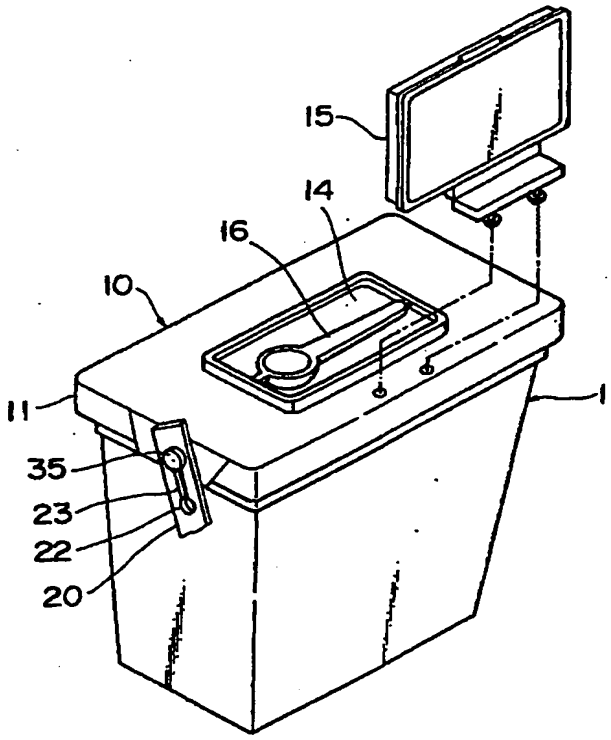
【第2図】



【第5図】



【第3図】



BEST AVAILABLE COPY